

三河国の総鎮守
砥鹿神社と
本宮山

交通安全

安全を祈る心を神守る
東海の交通守護神
心やすらかな
安全運転のために



三河国一宮 砥鹿神社

愛知県豊川市一宮町西垣内2番地
TEL (0533) 93-2001(代) FAX (0533) 93-7888

本宮山 砥鹿神社奥宮

TEL (0533) 93-2057

砥鹿神社結婚式場

TEL (0533) 93-2860 FAX (0533) 93-2860

ホームページ <http://www.togajinja.or.jp>

砥鹿神社里宮

砥鹿神社について

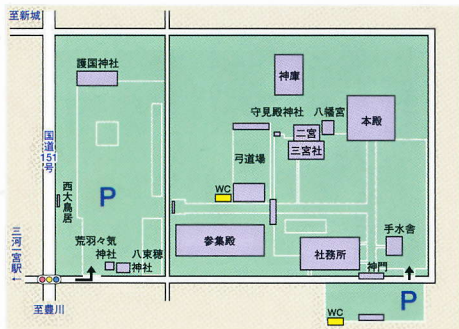
砥鹿神社は大己貴命(天國さま)を祀る旧国幣小社で三河国宮として広く尊崇せられ、交通安全、家運隆昌、厄難消除の御神徳が広大で、東海地方の総鎮守の神として各方面から篤い崇敬をいただいています。

撰社二宮社は事代主命(えびす様)をお祀りし、三宮社は建御名方命(諏訪様)をお祀りし、共に御本社の御子神で、御本社と共に福德、智徳、体徳の神様として崇められています。



家運隆昌、交通安全
厄難消除の
御神徳高く
東海の総鎮守の社。

砥鹿神社境内図



里宮の主な祭典	
一月一日	歳旦祭
三日	田遊祭
八日	弓始祭
十日	初えびす祭
十五日	火焚祭
二月節分	厄除祭
七月一日	夏越祈禱祭
七月二十日	えびす講大祭
十月二十日	新嘗祭
十月三十日	新嘗祭
十一月十日	新嘗祭
十一月十六日	本宮講奉春大祭
十一月三十日	本宮講奉春大祭
十二月一日	本宮講奉春大祭
十二月十五日	本宮講奉春大祭
十二月三十一日	本宮講奉春大祭

例祭、行事

毎年五月三日・四日・五日の三日間は砥鹿神社の例祭です。
三宮宮祭、四日例祭、五日後鎮祭
装束に身を包んだ少年が布引を両手に持ちながら馬が駆る、華やかで勇壮なやぶさめ神事をはじめ、雅やかに古式渡御しく執り行われるみこし渡御の儀式、そして愛らしい子供たちの稚児行列など、境内のあちこちで多彩な行事が行われ、各地より多くの人たちが、参拝に、そして見物に訪れます。
それ以外にも本社は初詣、初宮参り、七五三など、生活の節目を飾るにはかせない神社として、皆様の崇敬をあつめております。



弓道大会

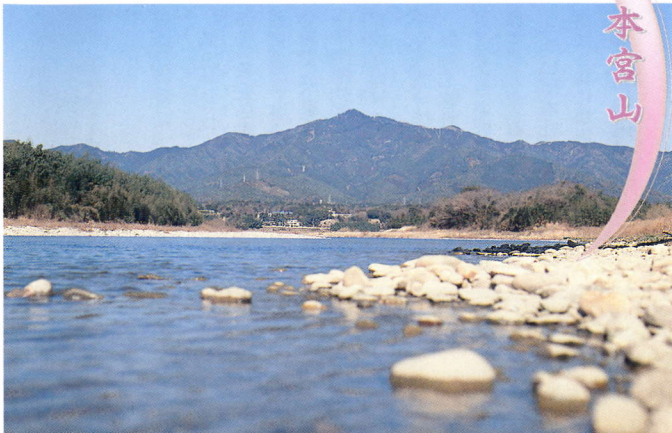
例祭や四季折々の
行事には
各地より訪れる
善男善女で賑わいます。

例祭の行事

五月三日	献花祭	五日後鎮祭
宵宮祭	神御衣奉献祭	学童祭
やぶさめ試乗祭	少年剣道大会	稚児行列
みこし渡御	中学校弓道大会	初詣
やぶさめ	高等学校弓道大会	



剣道大会



豊川より本宮山を望む

本宮山砥鹿神社奥宮

本宮山(海拔七八九メートル)は、千年近い大木の杉松が林立した神山で、愛知県天然記念物に指定されています。

頂上には三河国一宮砥鹿神社の奥宮が鎮座し、大己貴命(大國さま)をお祀りしています。本宮山は人生の哀歓、苦悩、願望等の生活社会の精神面問題も御神徳の御力により自然の心に立ち帰らせて下さいます。頂上まで本宮山スカイラインが開通し、起伏に満ちた山々、又アルプス連峰、富士山の秀峰、太平洋、伊勢志摩、浜名湖の景観が眺められます。

近年は徒歩登山者が年間数万人に及び健康の山として関心が高くなっております。



本宮山奥宮

美しい姿の本宮山は、
千古の神山として
仰がれる。



山頂丸山の桜



御神木



岩戸神社



八柱神社

粥占祭

一月十五日午前八時



荒羽々気神社
(東海唯一徒歩健脚の守護神)
大己貴命の荒魂を祀る。例祭は十月十四日。昔から足の願掛け神として崇敬されている。

その年の農作物の豊凶や天候風雨を占う農耕神事である。前日宮司以下登山参籠潔斎の後、十五日早暁、神水にて粥を炊きあげ、農産物、海産物の名を印した竹の管一十七本を混ぜて攪拌する。この後各々の竹の管につまんだ粥の量を測定する。古くより「オタメシ」、「オクダガイ」と言われ、参列者には粥占符が授与される。



粥占祭

(豊川市指定文化財)

本宮山の主な行事

本宮山の主な祭典行事

一月一日	歳旦祭
六月	宝印祭
一月十五日	粥占祭
二月六日	例占祭
四月二十九日	植樹祭
六月三十日	大祓祭
七月二十七日	麦秋祭
十月吉日	本宮講秋季大祭
十月十四日	荒羽々気神社例祭
七月十六日	煤拂祭
三十一日	大祓祭
毎月一日	月次祭
十二月二十日	旬祭
十五日	本宮講崇敬会月次祭

砥鹿神社結婚式場

いろいろな演出が特色の、華やかな結婚式場が多い中、一方では昔ながらの厳かな神前結婚式が見直される傾向も強くなってきています。砥鹿神社の結婚式は、流行に迎合しない本儀を奉仕しています。

神前で挙げる式の意義は、二人が結ばれた御神恩に感謝し、幸福な家庭を築いていくことを神前に誓うと共に、両家の弥栄、子孫の繁栄を祈ることにあります。

三河の総鎮守であり、大己貴命(天國様)をお祀りする由緒深い神社の境内にある総合結婚式場は、近代センスと重厚な趣がうまく調和された、厳かな場にふさわしい建物です。



守見殿神社 (疫病の守護神)

山頂奥宮北の石垣に沿って鎮座する神社である。大己貴命の和魂を祀る。古くは守見殿と称する外に薬師堂とも称したようである。一月六日「宝印祭」が行われる。神社の特殊神事でこの祭に宝印を頂く夏の疫病にかからないと伝えられ寒中多くの来拝者がある。



慶びに
染まる一日を
厳かに、
そして鮮やかに。



式は、神主、巫女数名で奉仕。祝詞奏上後に、神楽舞、箆楽太鼓で奉奏致します。この神楽は、三河でも当社だけのもの、披露宴も、ショーのようなハアさはないもの、自分たちの好みに合わせ色づけ可能です。個性豊かな演出を楽しんで下さい。

結びの儀式にふさわしい神社での挙式は、おふたりの心だけでなく、参列された全ての人々の心に深く刻まれることでしよう。

そして結婚からの人生の儀礼(安産祈願、命名、初宮詣、七五三、入学祈願等)の奉仕をいたします。



延喜の間

宝印祭

一月六日午後時
奥宮本社下方の末社守見殿神社にて斎行。厄難消除・無病息災が祈願される。祭典後は参拝者に秘伝の宝印が授けられ、宝印符、杓型餅が頒布される。寒中登山者が多い。



宝印祭